



[長期記憶の種類と例]

大分類	性質	小分類	例
宣言的記憶 (陳述記憶、顕在記憶)	意識的な記憶で、言葉で説明することができるもの。知識や経験を意識的に再生したり想起したりすることが可能。	エピソード記憶 (自伝的記憶)	先週の映画館に行ったことを覚えている。昨日何を食べたか覚えている。10年前の成人の日の出来事を覚えている。
		意味記憶	「sun=太陽」だと覚えている。「鎌倉幕府を開いたのは源頼朝」だと覚えている。
非宣言的記憶 (非陳述記憶、潜在記憶)	意識的に覚える必要がないもの。以前の経験や情報を参照して情報が処理される。無意識的に判断や行動に影響を与える場合がある。	手続き記憶 プライミング 古典的条件付け	自転車の乗り方、タイピングなど、継続的な経験（練習）によって身についたもの。 SNSでラーメンの画像を見ていると自分もラーメンを食べたくなってくる（直接プライミング）。「黒い・ツヤツヤ・動きが速い」と言われると嫌な虫が連想される（間接プライミング）。 パブロフの犬（鈴の音を聞くと唾液が出る）。

(3) 学習

経験による永続的な行動・認知の変容が起きることを、学習という。学習理論には主に、パブロフの犬で有名な「古典的条件付け」「道具的条件付け」「社会的学習理論」の3つがある。

(ア) 古典的条件付け（レスポンデント条件付け）

もとは無関係だった刺激と反応が学習によって結びつく現象を古典的条件付け（レスポンデント条件付け）という。古典的条件付けにおける反応は、生理的反応や情動反応が対象となる。

Pavlov, I. P. の犬で有名な実験は次のように説明できる。

犬に対してベル音（条件刺激）を聞かせた後、餌となる肉（無条件刺激）を提示する。犬は肉を見たことで唾液の分泌が生じる（無条件反応）。この手続きを繰り返すことで、犬はベル音（条件刺激）を聞いただけで、唾液の分泌（条件反応）が起きるようになる。これで条件付けが成立する。

刺激に反応を随伴させる手続きを強化という。条件付けの成立後に、条件刺激のみを提示し強化を行わないようにすると、次第に条件反応が誘発されなくなり、条件付けは消去されていく。消去の成立後に時間をおいて条件刺激を提示すると条件反応が復活することがあり、これを自発的回復という。

古典的条件付けの型を下記に紹介する。

- ・同時条件付け：条件刺激と無条件刺激を同時に提示する。単純な学習に有効。
- ・順向（先行）条件付け：条件刺激、無条件刺激の順に提示する。
- ・逆向条件付け（後続条件づけ）：無条件刺激、条件刺激の順に提示する。学習の妨げになる場合がある。
- ・痕跡条件付け：条件刺激の提示を短時間で打ち切り、一定時間の経過後に無条件刺激を提示する。
- ・時間条件付け：一定の間隔で無条件刺激を提示する。